



Asian River Restoration Network

アジア河川・流域再生ネットワーク

Annual Report 2009

年 次 報 告



目 次

■ご挨拶	1
玉井 信行 ARRN 会長	
Dr. Changwan Kim KRRN 事務局長	
Dr. Dongya Sun CRRN 事務局長	
佐合 純造 ARRN・JRRN 事務局長	
■アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）について	5
ARRN 設立の背景	
ARRN の目的	
ARRN の活動内容	
ARRN 組織体制	
ARRN 会員構成	
■ARRN の主な活動報告(2009 年)	9
活動概要（2008 年 11 月～2009 年 12 月）	
情報基盤整備（ウェブサイト）	
情報発信・普及（ニューズレター・ニュースメール）	
河川・流域再生事例の蓄積	
河川・流域再生に関するガイドライン構築	
国際フォーラム	
運営会議	
常設委員会	
広報・国際交流	
■各国内ネットワークの活動報告（2009 年）	21
韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN）	
中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）	
日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）	
■参考資料	33
第 4 回世界水フォーラム・自然再生分科会の提言（2006 年 3 月・メキシコ）	
ARRN 規約（2009 年 9 月改定版）	
ARRN 加入方法	
JRRN 加入方法	

ご挨拶



アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN：Asian River Restoration Network）は設立第3年目の活動を終えようとしております。会員の皆様をはじめとする多くの方々のご支援に深く感謝申し上げますと共に、「年次報告 2009（Annual Report 2009）」をお届けしまして1年間の活動を皆様にご報告致します。

2009年3月にはイスタンブール市で“第5回世界水フォーラム”が開催されました。これには事務局長が参加し、ヨーロッパ河川再生センター会長と会談し、国際的なネットワーク活動に関して意見交換を行うことができました。“第6回水辺・流域再生フォーラム”を9月29日にソウルで開催致しました。この会は“韓国建設技術研究院第5回河川環境国際ワークショップ”と共催で行ない、韓国の河川技術者が多数出席する機会となりました。ARRN加盟国からの講演者に加えてスイスから講演者を招き、環境共生型の治水策と市民を交えた合意形成過程について具体的な実例を学ぶことができました。

フォーラムに引続いて9月30日に運営会議を開催し、2010年の行動計画、次期2年間の役員・事務局の交代等の議論を始めたところです。2010年の行動計画では、国際水圏環境工学会（IAHR）とヨーロッパ河川再生センター（ECRR）を巻き込んだ新しい試みを行うことになりました。2010年9月にソウル市でIAHRが開催する“第8回生態水理に関する国際シンポジウム（8ISE）”の中に、ARRNが組織する特別セッションを設けることが決まりました。運営委員会に8ISE組織委員長を招いて議論した結果です。この特別セッションの中でARRNの第7回水辺・流域再生フォーラムおよびECRR会長を含めたパネルディスカッションを行い、国際ネットワークの将来に就いて議論を深める予定です。8ISEには生態学者も参加しますので、ARRN特別セッションにもこうした研究者の参加を期待しており、ARRNの活動範囲が一段と広がり、かつ深まることを期待しております。

また、2009年には8月に韓国仁川で開かれた“都市の水に関する世界フォーラム（WCWF）”に事務局が参加し、都市の水辺再生の最近の動向と国際的なネットワーク形成に関する発表を行いました。Websiteの充実につきましては、加盟国の事例や技術マニュアルを統一的に集めることを決めました。Newsletterは年に4回発行することが目標です。2009年は第3号、第4号の2回の発行でしたが、前年に比べると進歩しております。

上に述べましたように地道な活動を続け、会員の皆様のご要望に応えると共に、国際的な評価を高めるように努力して行きたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

玉井 信行 アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN） 会長
 （金沢学院大学大学院教授、東京大学名誉教授、国際水圏環境工学会 IAHR 会長）



いかに河川再生が慣行となりつつあるかは、ARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）の活動からも明らかとなっています。このことは、日本、中国、韓国という現在の3つの加盟国の河川再生推進を支援するというARRNの取り組みが素晴らしい成果をもたらしたことを示し、河川再生に関する知識、情報、成果を普及させるための優れたネットワーク組織としてのARRNの重要性を実証していると言えるかもしれません。ARRNは非営利組織で、国内ネットワーク組織（JRRN、CRRN、KRRN）と個人会員の両方のネットワークとして運営されています。その使命は、国内・アジア内の指向の統合を促進しながら、アジア全体の生態配慮型河川再生および持続可能な河川管理を推進することです。

大局的かつ総合的で生態配慮的な観点から河川生態系の状況改善を目指しているアジアの水関係当局および河川管理者にとって、河川再生は最重要課題となっています。同時に、河川再生は、治水、水利用、水生生物の生息地、景観価値創造など、河川が持つその他の機能を実施するための重要なツールでもあります。生態配慮型河川再生は困難な課題であり、その中には、高地、低地、都市河川など、異なる種類の河川系のための戦略策定・実施およびプロジェクト評価に関する広範囲にわたるテーマが含まれています。事業を成功させるために取り組みが必要な課題分野には、生態学、水文学、地形学、社会学などがあり、陸水生態系の回復には全体的な枠組みの中でこれらのテーマがすべて盛り込まれていなくてはなりません。政策レベルで河川再生の用語および概念を導入すれば、本問題に関する世界的経験が、応用研究、方法論、技術によるアイデアおよび知識と合わせて議論されるようになるでしょう。

ARRNは、アジアの河川再生に関する技術指針の入門書として、“Reference Guideline for Restoration by Eco-Compatible Approach in River Basin version 1（アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1）”を出版しました。この取り組みは、近い将来、アジア諸国全体にとって河川再生の総合的かつ統合的指針を生み出すまさに第一歩です。ARRNが世界で最も優れた指針を出版するにあたってJRRN、CRRN、KRRNの貢献を期待しています。

Dr. Changwan KIM 韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN） 事務局長

（前：韓国建設技術研究院 KICT 上席研究員、 RiverTek Institute 代表）



中国経済の急速な発展に伴い、集中的な土地開発、水不足、水環境の悪化など、多くの問題を発生しています。また、水利・水力発電プロジェクトによる無秩序で不適切な建設の問題もあります。これらの問題は、持続的な河川の生息環境を悪化させ、また湖水地域の縮小、自然湿地の消失・縮小なども招きました。

こうした問題を解決するため、中国政府は多くの河川再生事業を計画的かつ段階的に実施してきました。政策・規制、基礎研究、モニタリングと評価、特別計画、河川再生事業による施設建設などの面で大幅な進展を遂げています。河川再生は、開発の科学的概念や水資源管理に関する新たな考えを実行し、また環境保護の文明を築くための重要な施策の一つです。また、水資源保全の基本条件であり、重要要素でもあります。

中国の河川再生分野の実績において国際的な経験を積みました。当面、中国が培った経験は、他国の中でも特に中国と同じ自然条件のアジア諸国の参考になるでしょう。アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）は知識の共有や技術の一般化において極めて重要な役割を果たしてきました。ARRN ネットワークを通じての「アジア河川再生ガイドライン」の策定、ならびに ECRR および GRRN との協調推進について特に感謝しています。

中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）は様々な活動の効果的な展開に取り組んでいます。CRRN のウェブサイトは 2009 年末に開設されました。CRRN が主催する河川再生に関する最初の全国ワークショップは 2010 年 11 月に開催予定です。CRRN は河川再生計画の国内ガイドライン策定の推進、および各地の河川再生プロジェクトの技術サポートの提供も行っていく予定です。

ARRN はアジアの河川の持続的開発に引き続き貢献を果たすことでしょう。この場をお借りして、ARRN の効率的な運営に貢献いただいた全ての人々に心より感謝の気持ちを述べると同時に、ARRN 事務局グループに敬意を表したいと思います。ARRN のメンバーの皆さんが、寅年の今年も強い意志と不屈の精神を持って新たな課題に取り組み活躍してくれることを願っています。

Dr. Dongya SUN 中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN） 事務局長
（中国水利水電科学研究所 IWHR）



ARRN/JRRNの活動は2006年の発足から4年目を迎えました。

JRRN は（財）リバーフロント整備センター内に事務局を設けて、限られたスタッフ、財源の中で、WEBの充実、定期的なニュースメール発信やニューズレターの発行、ミニ講演会の開催など、会員のための有益な活動を行っています。また、国内の河川再生事例の収集や研究にも力を入れており、その成果は逐次ホームページなどで国内外へ公開しています。

今後はニュースメールやニューズレターなどによる会員への情報提供に加えて、会員同士の情報交換の活発化などネットワーク活動を充実させていきたいと考えています。個人会員は400名を突破しましたが、さらなる会員数の拡大が必要です。このためには、引き続き、ARRN/JRRNの活動を積極的にPRしていきたいと考えています。

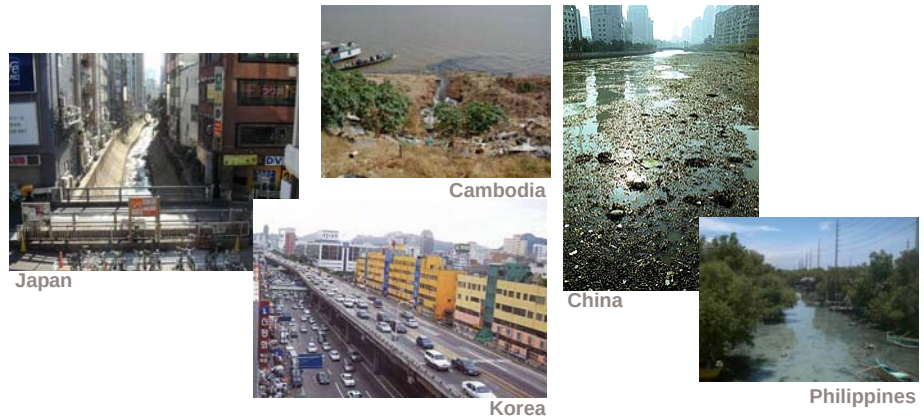
ARRN については、発足以来、引き続いて JRRN が事務局を引き受けています。昨年は、KRRN の協力のもと、韓国において国際フォーラム、運営会議を開催することができました。

また、CRRN、JRRN、KRRN（ABC 順）が協力して「アジアに適応した河川環境再生の手引き（ver.1）」を作成して、トルコで開催された世界水フォーラムで配布しました。今後も各 RRN の協力を得ながら、さらなるヴァージョンアップを考えています。

今後も玉井会長のご指導を得ながら、各 RRN と協力しながら、積極的な情報交換を行い、ARRN がさらに発展してアジアの河川再生に貢献できるよう努力していきたいと考えています。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

佐合 純造 ARRN、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN） 事務局長
（財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ長）

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)について



ARRN 設立の背景

河川は元来、治水・利水の対象のみならず、農業・漁業・物質輸送等、人々の生活基盤を支える資源の一つであり、人々は河川・水辺を中心に社会生活や生産活動を営んできました。しかし、高度経済成長期の人口増加と沿川の人口集中化は、流域の経済発展と引き替えに河川の浄化能力を損なう結果となりました。その結果、汚濁の進行、河川環境や歴史・文化の損失を招き、近年はアジアの多くの地域において共通の社会問題となっています。

一方、欧米諸国では先行的に生態系や浄化能力等の河川が本来持っている能力の再生保全の取り組みが行われています。また、アジアでも失われた河川機能を回復し、河川環境を再生すると共に、河川に新たな価値を見出す事例が多く報告されるようになりました。こうした時勢において、類似した気候や地形条件を有するアジア地域を中心として、河川・流域再生に関する事例・技術・関連出版物・専門家等の情報を交換し、互いにより質の高い環境再生、保全の技術を培うためのオープンな組織が求められています。

2006年3月にメキシコシティで開催された「第4回世界水フォーラム」の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドラインの作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この合同分科会での提言を引き継ぐ形で、2006年11月に東京で開催された『第3回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』の場で、「アジア河川・流域再生ネットワーク」(ARRN: Asian River Restoration Network)が日中韓の関係機関をメンバーとして正式に設立されました。

ARRN の目的

ARRN は、非政府組織としての中立の立場で、以下の二つを主な目的として、アジアの豊かな水環境の創造に寄与することを目指します。

- イベントの開催や Website を通じ、アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験等を、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築すること。
- 類似した社会・自然環境を有するアジアモンスーン地域で利用できる河川・流域再生ガイドラインを構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図ること。



Korea



China

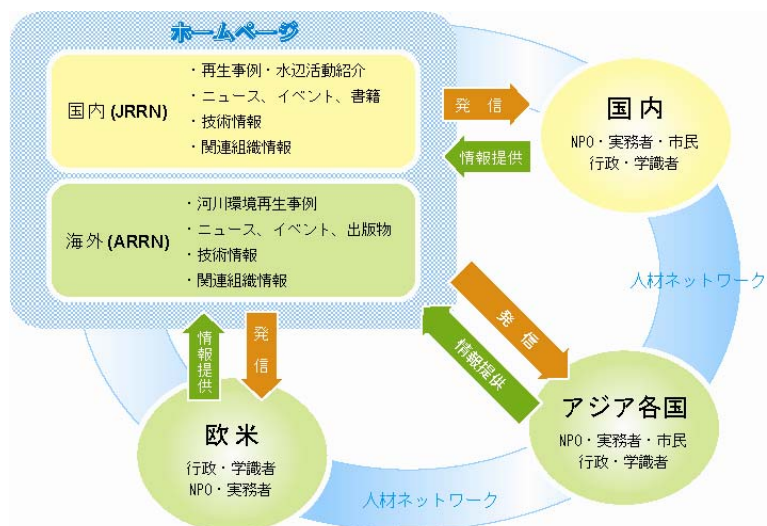


Japan

ARRN の活動内容

ARRN は、上記の目的の達成に向け、次の活動を行います。

- 河川・流域の再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催
- 水辺再生の関連情報を Web サイトやニュースレター等で公開
- 河川・流域再生に関するガイドラインの作成・普及
- 各国・地域内ネットワーク間での講師・専門家派遣、現地視察企画等の支援
- 河川環境に関する調査研究・出版・広報活動等



ARRN の情報循環活動イメージ

ARRN 組織体制

■ 国内ネットワーク (River Restoration Network)

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのネットワークを「River Restoration Network (以下、RRN)」と総称します。国内ネットワークは各地域内での自由な活動が奨励されています。

■ 運営会議 (Governing Council)

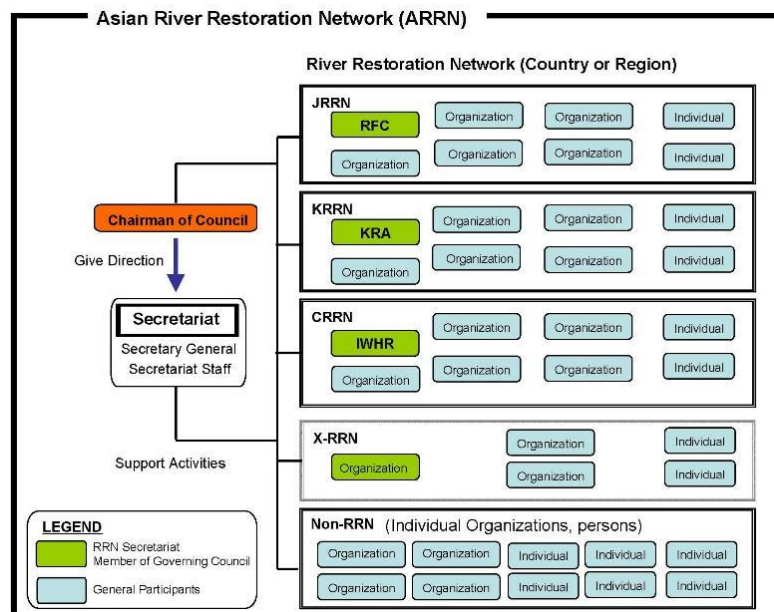
ARRN の運営方針は各国内ネットワークの代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長（会長）により総括され、ARRN の年間活動計画、予算計画等の決議を行います。「RRN」の代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Council」が構成されます。

■ 事務局 (Secretariat)

運営会議は、運営会議に決議された「事務局」により開催されます。事務局は運営会議の他、ARRN の活動を遂行します。

■ その他一般参加者 (General Participants)

上記以外に、ARRN の運営に直接携わらずフォーラム等のイベントや Web サイトの活用をする者を「一般参加者」と総称します。一般参加者は、各 RRN の定める規約に従い参加登録等を行った者や、ARRN に直接参加を表明した者の総称し、個人、団体を問いません。



ARRN 組織概要図

ARRN 会員（2009 年 12 月現在）

現在、国内ネットワークとして 3 団体、また組織会員として 2 団体で構成されています。

国内ネットワーク（River Restoration Network）

韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN）：Korea River Restoration Network

<http://www.krrn.net/>

【事務局】韓国河川協会

<http://www.riverlove.or.kr/>

【組織会員】韓国建設技術研究院（KICT）

【個人会員】 -

中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）：China River Restoration Network



<http://www.cnrrc.cn/>

【事務局】中国水利水電科学研究所（IWHR）

<http://www.iwhr.com/english.asp>

【組織会員】国家水電可持続発展研究中心、水利部中国科学院水工程生態研究所

【個人会員】 -

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）：Japan River Restoration Network



<http://www.a-rr.net/jp/>

【事務局】財団法人リバーフロント整備センター（RFC）

<http://www.rfc.or.jp/english/top.htm>

【組織会員】18 団体

【個人会員】401 人

個人会員構成内訳

民間企業 51%、行政・公共機関 20%、研究機関 14%、市民団体 8%、その他 7%

※2006. 11～2010. 10 まで JRRN 事務局が ARRN 事務局を担います。

組織会員（Non-RRN member）

タイ天然資源環境省水資源局：Department of Water Resource, Thailand

<http://www.water.go.th/>

パキスタン連邦洪水委員会（FFC）：Federal Flood Commission, Pakistan (FFC)

<http://www.ffc.gov.pk/>

ARRN の主な活動報告(2009 年)

活動概要 (2008 年 11 月～2009 年 12 月)

年	月日	活動の種類	活動内容	開催場所
2008	11 月 4 日	イベント開催	第 5 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	中国 (北京)
	11 月 4 日	会議開催	第 3 回 ARRN 運営会議 開催	中国 (北京)
	11 月 5 日	交流・広報活動	第 4 回 APHW 国際会議 参加・ARRN 論文発表	中国 (北京)
	12 月 25 日	情報発信	ARRN Newsletter Vol.2 発行	-
2009	2 月 27 日	情報発信	ARRN 年次報告書 2008 発行	-
	3 月 16 日～20 日	交流・広報活動	第 5 回世界水フォーラム参加	トルコ (イスタンブル)
	3 月 16 日	交流・広報活動	ヨーロッパ河川再生センター (ECRR) 会長と会議	トルコ (イスタンブル)
	4 月 6 日	出版	「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1」 発刊	-
	6 月 10 日～13 日	交流・広報活動	韓国河川協会視察団の来日支援	日本 (北海道)
	7 月 17 日	情報発信	ARRN Newsletter Vol.3 発行	-
	8 月 17 日	会議開催	第 2 回 ARRN 情報委員会・技術委員会 開催	韓国 (仁川)
	8 月 18 日～21 日	交流・広報活動	世界都市水フォーラム WCWF2009 参加・ARRN 論文発表	韓国 (仁川)
	9 月 29 日	イベント開催	第 6 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	韓国 (ソウル)
	9 月 30 日	会議開催	第 4 回 ARRN 運営会議 開催	韓国 (ソウル)
	12 月 11 日	情報発信	ARRN Newsletter Vol.4 発行	-

ARRN について

ARRN 活動

KRRN 活動

CRRN 活動

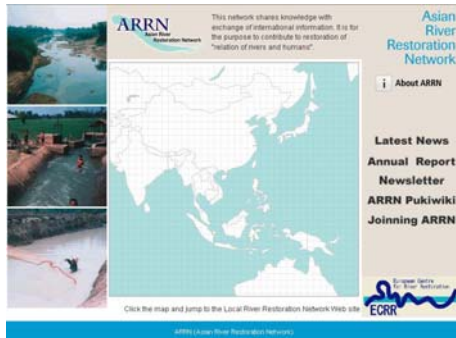
JRRN 活動

参考資料

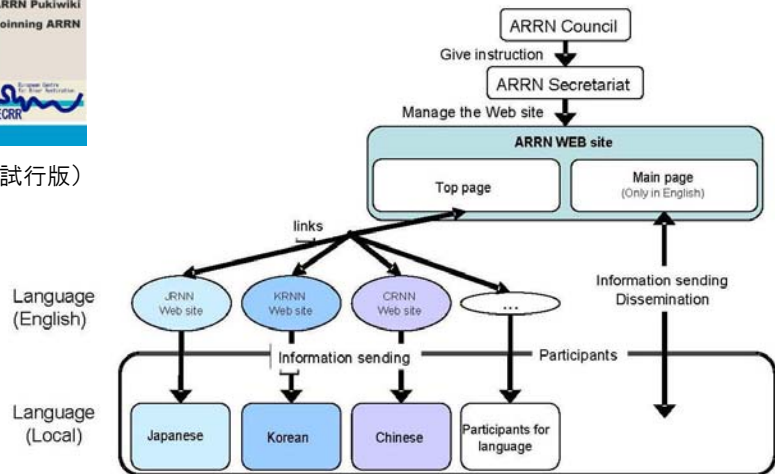


情報基盤整備(ウェブサイト)

ARRN 設立の契機となった「第 4 回世界水フォーラム（2006 年 3 月）」分科会において、河川再生に関わる情報共有基盤の整備（ウェブサイト）が提言され、現在の ARRN ウェブサイトは試行版として 2006 年に構築・公開されました。⇒ ARRN トップページ（<http://www.a-rr.net/>）



ARRN ホームページのトップ画面（試行版）



ARRN ホームページの基本構造

第 3 回 ARRN 運営会議（2008 年 11 月）において、ARRN ウェブサイトの操作性向上と情報量充実化を主とする再構築が決議されました。2009 年は、暫定的に、「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」の英語版ウェブサイト内に ARRN 専用ページを設け、ARRN に関わる情報を整備しました。

現在、2010 年 3 月末を目標に、ARRN ウェブサイトの全面リニューアル作業を実施しています。2010 年 4 月から運用を開始する新 ARRN ウェブサイトでは、ARRN の活動報告、出版案内、河川再生に関わるニュースや行事、河川再生に関連する技術指針類や書籍等の情報源、またアジアの河川再生事業のデータベース機能が追加される予定です。

引き続き、国内ネットワークである各 RRN ウェブサイトの充実化と合わせ、ARRN のウェブ環境整備を進めて参ります。

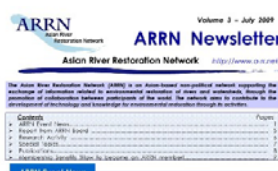
情報発信・普及(ニューズレター・ニュースメール)

ARRN ニューズレター

2008年7月より、英語によるARRNニューズレターを半年に1回の頻度で配信しており、2009年は7月(vol.3)と12月(vol.4)の2回配信し、ARRNの活動を関係者間で共有する上で有効な手段となっています。

2010年からは、3か月に1回の配信を予定しており、ARRN会員や世界の河川再生に携わる方々よりご投稿頂いた記事をご紹介します。

なお、バックナンバーはARRNウェブサイトよりダウンロードが可能です。



Volume 3



Volume 4

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/publication/newsletter/>

ARRN ニュースメール

第3回ARRN運営会議(2008年11月)において、各国内ネットワークの活動を共有することを目的として、現在ARRN事務局を担う「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」が定期配信するJRRNニュースメールの英語版を不定期に配信することが決議されました。

2009年は、JRRNニュースメール第200号の英語版を6月に、また第250号を11月に試験配信しました。

2010年からは月1回の配信を目標とし、今後はARRN会員や河川再生関係者から提供頂いた情報を速やかに配信する情報媒体を目指して参ります。

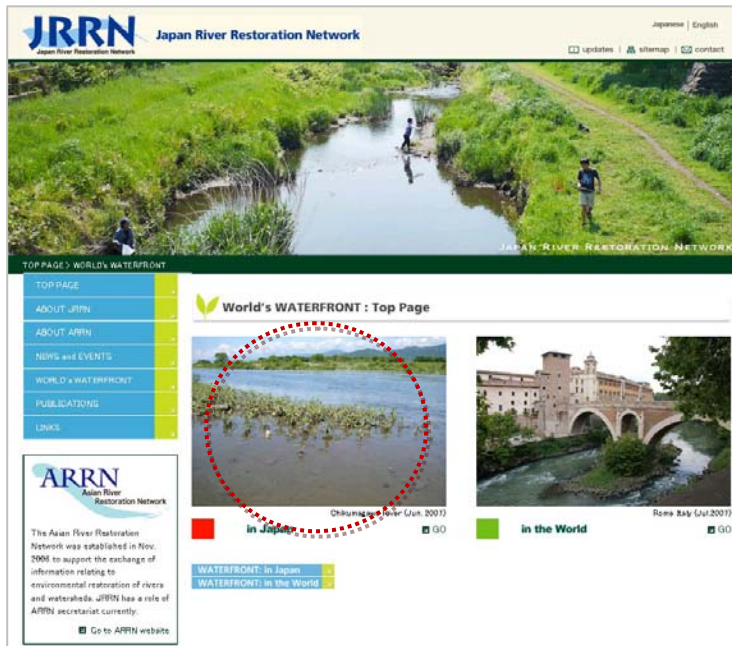
なお、ARRNニュースメールのバックナンバーはARRNウェブサイトで閲覧できます。

バックナンバーURL: http://www.a-rr.net/publication/news_mail/

河川・流域再生事例の蓄積

ARRN は、アジアにおける優れた河川・水辺の再生事例を、各国・地域で共有する仕組みづくりを活動の柱の一つとしています。

2009 年は、現在 ARRN 事務局を担う「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」が中心となり、日本国内の約 200 の再生事例を収集整理し、JRRN ウェブサイトを通じて公開しました。



URL : <http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/>

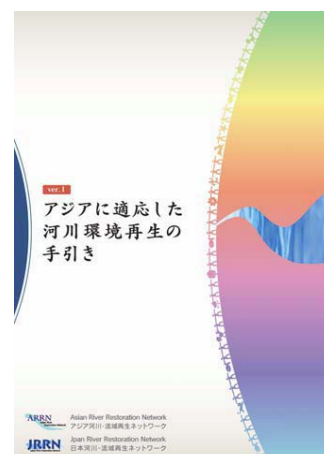
2010 年は、ARRN を構成する各国内ネットワーク (RRN) がそれぞれの河川・水辺再生事例を収集整理し、各 RRN ウェブサイト内で紹介するとともに、アジアの河川再生事業データベースとして新 ARRN ウェブサイトにも掲載していく予定です。

河川・流域再生に関するガイドライン構築

ARRN は「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver. 1」（日本語版及び英語版）を 2009 年 3 月に発行しました。本手引きは、ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/1223.html>

2010 年は、2009 年 8 月に開催した第 2 回 ARRN 技術委員会及び 2009 年 9 月に開催した第 4 回 ARRN 運営会議での議論を踏まえ、初版をバージョンアップした「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver. 2」の作成に取り組み、2010 年 9 月にソウルで開催される「第 8 回生態水工学国際シンポジウム」での公表を目指しています。



■ 中間目標

- 毎年開催の技術委員会後に、アジア河川再生手引き更新版を中間成果として年 1 回公表する。（2010 年 9 月頃：ver. 2、2011 年 9 月頃：ver. 3）
- 2012 年 3 月にフランスで開催される「第 6 回世界水フォーラム」での公開・配布を目指す。

■ 主な更新・改善項目（ver. 2 に向けて）

- 河川に関する一般的な情報（用語の定義、各国の河川の特徴等）を充実化する。
- 伝えたいことを的確に表現する質の高い（事例）写真を豊富に追加する。
- 日本・韓国・中国の河川再生優良事例を均等に追加する。また、優れた事例のみならず、各国が抱える（困っている）河川再生上の課題に関わる情報・技術・写真も収集し手引きに反映する。
- 河川再生全体の枠組み、基礎的概念（考え方）、具体方法論、及び用語を含む一般情報を含める。
- 各国の既存技術指針類や河川の状況が分かる文献等のリストを巻末資料として追加する。

ARRN河川再生手引き作成の背景

ARRN設立の契機となった「第4回世界水フォーラム（2006年3月）」分科会において、アジアの河川環境再生に関わる情報共有基盤整備と合わせ、河川再生手引き構築の必要性が提言された。

“類似した自然・社会環境を保有するアジア・モンスーン地域として、河川環境再生の技術指針を構築することが緊急の課題である。”

この提言に基づき、ARRNが保有するネットワークを活用し”アジア河川再生手引き”の作成と更新及び普及をARRN活動の機軸と位置づけ継続的に取組んでいる。

(1) 目的

アジア・モンスーン地域に相応しい河川再生の方法論の確立を目的とする。

(2) 顧客・利用者

河川再生活動に関わる一般市民（＝非専門家）を対象として作成する。

(3) 言語

英語による関係者共同作業を実施し、英語を言語としてアジア河川再生手引きを発行する。また、各RRNが、母国語（中国語・韓国語・日本語）への翻訳、及び自国での普及の責任を負う。

(4) 作成担当

ARRN技術委員会監修の下で、ARRN事務局及び各RRN事務局が共同で実施する。

国際フォーラム

第5回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（2008年11月4日：中国・北京）

2008年11月4日（火）、中国・北京の清華大学において、ARRN主催「第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」を開催しました。過去4回の国際フォーラムはいずれも東京にて開催しましたが、第5回フォーラムは、11月3日から5日まで北京市で開催された「第4回アジア・太平洋水文水資源協会（APHW）国際会議」の特別分科会（special session）として開催しています。

講演は日本、中国、韓国よりそれぞれ1名、3名、1名により行われ、それぞれの国内の河川再生に関する最新の研究テーマや動向等を紹介頂きました。また多くの方々に参加頂き、APHW国際会議への参加者及び中国国内の水・河川関係者を中心に、河川環境分野の情報と意見交換を行うことができました。



開会挨拶



講師及びARRN関係者

プログラム

司会進行 玉井信行（ARRN 会長）

8:45-10:15

開会挨拶 Wang Xiaogang（中国水利水電科学研究院 副院長）

講演 Chang Wan Kim（韓国建設技術研究院 上席研究員）

■河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析 ～韓国京畿（キョンギド）地方の事例

講演 戸田祐嗣（名古屋大学 准教授）

■河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について～伊勢湾流域圏での取り組み

10:15-10:30

休憩

10:30-11:50

講演 Dong Zheren（中国水利水電科学研究院 教授）

■河川再生の理論と実践

講演 Wang Zhaoyin（中国清華大学水利科学・技術研究所 教授）

■中国における河川再生に向けた川の機能向上の取り組み

講演 Chang Jianbo（中国科学院水資源省 水利研究所 教授）

■三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件

11:50-12:00

総括 玉井信行（ARRN 会長、金沢学院大学大学院特任教授、東京大学名誉教授）

第6回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（2009年9月29日：韓国・ソウル）

2009年9月29日（火）に、アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）主催で『第6回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を韓国・ソウル市にて開催しました。

本国際フォーラムは、韓国建設技術研究院（KICT）主催の『第5回 KICT 河川環境国際ワークショップ』と併催で行われ、韓国国内の関係者に ARRN の PR と河川環境分野の情報・意見交換を行うことができました。

第6回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

○日時：平成21年9月29日（火）15:00～18:00

○会場：KOFST International Convention Center（韓国・ソウル市）

○主催：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）、韓国建設技術研究院（KICT）、韓国河川協会（KRA）

○共催：韓国河川再生ネットワーク（KRRN）、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）、中国河川再生ネットワーク（CRRN）

<プログラム>

15:00-15:30

・開会挨拶 Samhee Lee（KICT 副院長）、玉井信行（ARRN 会長）、Kook IL Kim（韓国河川協会会長）

15:30-18:00

■講演1：白川直樹（筑波大学講師）：「川に流れを取り戻す ～日本における過去・現在・未来」

■講演2：Dongya Sun（CRRN 事務局長、中国水利水電科学研究所 IWHR）：「中国における河川再生の最新の取り組み」

■講演3：Marco Baumann（Canton Thurgau、スイス）：「河川工学と管理 ～スイスにおける事例から」

■講演4：Hong Koo Yeo（韓国建設技術研究院 KICT）：「韓国4大河川再生事業の基本計画について」



運営会議

ARRN の運営方針は、各国内ネットワークの代表者よりなる「運営会議」にて決定することが ARRN 規約（巻末参考資料参照）により定められており、例年、ARRN 国際フォーラムの開催と合わせて年一回開催されています。

ARRN 運営会議メンバー（2009 年 9 月時点）

ARRN 会長：

玉井 信行， 金沢学院大学大学院教授、東京大学名誉教授、国際水圏環境工学会（IAHR）会長

ARRN 事務局長：

佐合 純造， 財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ長（JRRN 事務局長）

KRRN（韓国河川・流域再生ネットワーク）：

（事務局組織）

韓国河川協会（KRA）

（事務局長）

Changwan Kim, Korea 韓国建設技術研究院（KICT）

（情報委員）

Jeong Seok Yang, Kookmin 大学

（技術委員）

Ji Won Lee, Korea Engineering consultants Corp.

CRRN（中国河川・流域再生ネットワーク）：

（事務局組織）

中国水利水電科学研究院（IWHR）

（事務局長）

Dongya Sun, 中国水利水電科学研究院（IWHR）

（情報委員）

Wengen Liao & Chong Li, 中国水利水電科学研究院（IWHR）

（技術委員）

Hao Wang & Kewang Tang, 中国水利水電科学研究院（IWHR）

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）：

（事務局組織）

財団法人リバーフロント整備センター

（事務局長）

佐合 純造， 財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ長

（情報委員）

伊藤 一正， 株式会社建設技術研究所/財団法人リバーフロント整備センター

（技術委員）

白川 直樹， 筑波大学

備考）現在、JRRN が ARRN 事務局を担っています。

第3回 ARR N 運営会議 (2008 年 11 月 4 日：中国・北京)

2008 年 11 月 4 日（火）、アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の「第 3 回運営会議」が、中国・北京市の CRRN: 中国河川・流域再生ネットワーク事務局（水利水電科学研究院）にて開催されました。

会議の冒頭では、ARRN 会長の任期満了（2 年）に伴う次期会長の任命が行われ、前期に引き続き、玉井信行教授（金沢学院大学教授・東大名誉教授・IAHR 会長）にお引き受け頂くことが日中韓三国合意の下で決まりました。続いて、これまでの 1 年間の活動報告の後、審議と意見交換として、ARRN 組織体制の話題、次年度の活動方針、特に来年の国際フォーラム開催地や河川再生ガイドライン構築の進め方などを中心に審議と意見交換が行われました。

■ 参加者

ARRN 会長：

玉井信行（金沢学院大学大学院特任教授、東京大学名誉教授）

CRRN（中国河川・流域再生ネットワーク）：

Dongya Sun（中国水利水電科学研究院 IWHR）、Wengen Liao（IWHR）、Kewang Tang（IWHR）、

KRRN（韓国河川・流域再生ネットワーク）：

Chang Wan Kim（建設技術研究院 KICT）、Hong Koo Yeo（KICT）

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）：

佐合純造（リバーフロント整備センター RFC）、伊藤一正（RFC）

オブザーバー：

Xiaogang Wang（IWHR）、Zheren Dong（IWHR）、Peng Jing（IWHR）

ARRN 事務局（JRRN 事務局）：

伊藤将文、和田彰、丹内道哉



第4回 ARR N 運営会議 (2009 年 9 月 30 日：韓国・ソウル)

2009 年 9 月 30 日（水）、アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の「第 4 回運営会議」が、韓国・ソウル市にて開催されました。

はじめに、昨年 1 年間のネットワーク活動報告として、ARRN 及び運営会議を構成する日本 (JRRN)・韓国 (KRRN)・中国 (CRRN) より説明がありました。続いては、今後 1 年間のネットワーク全体での活動計画として、フォーラムやワークショップ等のイベント開催、ホームページの構築、河川再生手引きの作成、また他ネットワークとの連携等に関し審議と意見交換を行いました。

■ 参加者

(ARRN)

玉井信行（金沢学院大学、ARRN 会長）

佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター、ARRN 事務局長）

(KRRN：韓国河川・流域再生ネットワーク)

Chan Wan KIM（KICT 韓国建設技術研究院、KRRN 事務局長）、JeongSeok YANG（国民大学、KRRN 情報委員）

(CRRN：中国河川・流域再生ネットワーク)

Dongya SUN（IWHR 中国水利水電科学研究院、CRRN 事務局長）、Dongsheng WANG（IWHR、CRRN 情報委員代理）、Fang WANG（IWHR、CRRN 技術委員代理）

(JRRN：日本河川・流域再生ネットワーク)

佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター、JRRN 事務局長）、伊藤一正（財団法人リバーフロント整備センター・株式会社建設技術研究所、JRRN 情報委員）、白川直樹（筑波大学、JRRN 技術委員）

(オブザーバー)

Kooil KIM（韓国河川協会会長）、Hyoseop WOO（KICT）、Hong Koo YEO（KICT）、Jing ZHANG（IWHR）、Marco Baumann（Canton Thurgau、スイス）

(ARRN/JRRN 事務局)

沼田彩友美、和田彰



常設委員会

2007年12月に開催された第2回ARRN運営会議において、ARRNの今後の活動内容や情報循環策について議論するための「情報委員会」、及びARRNとして保有すべき技術やアジア版河川再生ガイドラインのあり方について議論することを目的とした「技術委員会」の二つの常設委員会設立が決議され、2008年7月に両委員会が設立されました。

第2回ARRN情報委員会・技術委員会（2009年8月17日：韓国・仁川）

2009年8月17日（月）、アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の「第2回情報委員会」及び「第2回技術委員会」が韓国・仁川市にて開催されました。

情報委員会では、第6回世界水フォーラム（2012年3月）までのARRN中期活動計画やネットワーク拡大に向けた組織体制の話題、またヨーロッパ河川再生センター（ECRR）との今後の連携などについて議論がなされました。また技術委員会においては、最新の各国の河川環境の話題を交換の後、2009年3月に発行した「ARRN河川再生ガイドライン ver.1」を今後どのように発展させていくかを中心に活発な意見交換を行いました。

両委員会での協議結果を踏まえ、ARRN事務局が日中韓関係機関との調整を行い、2009年9月末に韓国・ソウル市で開催された「第4回ARRN運営会議」へ協議事項を提出しています。

参加者

（ARRN情報委員）

伊藤一正（株式会社建設技術研究所・財団法人リバーフロント整備センター）、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn（代理出席：KICT韓国建設技術研究院）

（ARRN技術委員）

白川直樹（筑波大学）、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn（代理出席：KICT韓国建設技術研究院）

（オブザーバー）

Chanwan Kim（KICT韓国建設技術研究院、ARRN事務局長）、Kooil Kim（韓国河川協会会長）

（JRRN/ARRN事務局）

沼田彩友美、後藤勝洋、和田彰



広報・国際交流

ARRN の活動を広くアジアに紹介し会員の増加を図ることを目的として、河川再生に関する国際会議や学術会議への参加、また関連組織との意見交換を通じ ARRN の PR 活動を実施しています。

第 4 回 アジア・太平洋水文水資源協会（APHW）国際会議参加（2008 年 11 月 3 日～5 日：中国・北京）



2008 年 11 月 3 日（月）～6 日（水）に中国・北京市内の清華大学を会場に「第 4 回アジア・太平洋水文水資源協会（APHW）国際会議」が開催され、ARRN 事務局として「アジアの河川再生の動向と国際ネットワーク構築の取組み」と題した講演と参加者との意見交換を行いました。

第 5 回世界水フォーラム参加（2009 年 3 月 16 日～22 日：トルコ・イスタンブール）

第 5 回世界水フォーラムが、3 月 16 日（月）～22 日（日）にかけて、「Bridging Divides for Water（水問題解決のための架け橋）」をテーマにトルコ・イスタンブールで開催されました。今回のフォーラムには、150 を超える国々から、30,000 人を超える水関係者が集結し、100 以上のセッションにおいて様々な水問題の解決策について議論が行われました。

前回の第 4 回世界水フォーラム（2006 年 3 月・メキシコ）における日中韓共催分科会の提言を受けて ARRN が設立されたこともあり、フォーラム参加者への ARRN の PR や意見交換、また ARRN 作成「河川再生の手引き」普及活動を主な目的に、ARRN 事務局より二名が参加致しました。



ヨーロッパ河川再生センター（ECRR）会長との意見交換（2009 年 3 月 16 日：トルコ・イスタンブール）



2009 年 3 月 16 日（月）、ARRN のモデル組織である ECRR の Mr. Bart Fokkens 会長と、今後の ECRR との協働や ARRN の活動に関する意見交換を行いました。本協議は、第 5 回世界水フォーラム（トルコ）に ECRR 会長及び ARRN/JRRN 事務局長が参加するのに合わせ、現地（トルコ）にて行われたものです。今後の関連イベントへの双方参加や、データベース構築等への貢献など、可能な取組みから欧州とアジアで連携していく旨の意見交換となりました。

韓国河川協会視察団の来日支援（2009年6月10日～12日：北海道）

2009年6月10日（水）～12日（金）にかけて、韓国河川協会の海外視察団（53名）が札幌市を中心に北海道の河川改修、治水事業、河川環境についての視察を目的に来日しました。韓国河川協会はARRNの韓国窓口組織KRRNの事務局組織でもあり、JRRN事務局として視察先の河川管理各機関とのスケジュール調整や説明資料の準備などの協力を担うと共に、恵庭市茂漁川、石狩川、豊平川、千歳川の視察などに同行いたしました。



世界都市水フォーラム WCWF2009 参加（2009年8月18日～21日：韓国・仁川）

2009年8月18日（火）～21日（金）にかけて、韓国・仁川市の松島国際会議場を会場に「世界都市水フォーラム WCWF2009」が開催され、約5000人の都市における水問題に関わる専門家が一同に会し最新の技術や経験の交換が行われました。

ARRN/JRRN事務局では、分科会「都市河川再生（Restoration of Urban Stream Amenity）」において「アジアの都市河川再生の動向と国際ネットワーク構築の取組み」と題した発表をJRRN事務局沼田（財団法人リバーフロント整備センター企画グループ）から行いました。

フォーラム開催期間中は、河川環境に関連する分科会として、都市河川再生以外にも水域生態再生や舟運による地域活性などのテーマが開催され、韓国や他国の様々な事例が紹介されていました。



各国内ネットワークの活動報告(2009 年)

韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN) : Korea River Restoration Network

KRRN について

KRRN は、ARRN の韓国における窓口組織として、河川や水辺再生に関わる有益な情報を韓国国内で循環させ、また人材交流を促進することを通じ、各地域に相応しい河川再生技術やその進め方等を発展させることに寄与することを目的として活動しています。

2009 年の主な活動実績

第 5 回河川環境に関する国際ワークショップ (2009 年 9 月 29 日、韓国ソウル)

韓国建設技術研究院 (KICT) とアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) が共催する「第 6 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」との併催で、第 5 回河川環境に関する国際ワークショップが 2009 年 9 月 29 日、韓国ソウルで開催されました。KICT は河川再生に関する教訓および知識を外国と共有する目的で、毎年、国際ワークショップを開催してきました。ワークショップの目標は以下の通りです。

- 米国、西欧、日本から選りすぐられた専門家の指導による小規模の非公式ワークショップを通じて、これらの地域から河川環境管理に関する高度な知識と経験を学ぶこと（これらの分野の実践技術者、研究者、専門家、学生が参加対象）
- 本ワークショップおよび招待した専門家とその訪問中に行う小規模のグループ会談を通じて、河川再生、堰（小さいダム）の撤去、河畔緩衝帯の設計、自然に優しい河川管理など、河川環境に関する研究を行っている KICT の研究者に機会を提供すること

第 5 回国際ワークショップに関する詳細情報は、第 6 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラムの「ARRN の活動」のページで紹介されています。

気候変動に備えた河川再生に関わる国際シンポジウム (2009 年 8 月 11 日、韓国ソウル)

KRRN は 2009 年 8 月に開催された「気候変動に備えた河川再生に関わる国際シンポジウム」を後援しました。

気候変動に備えた河川再生に関わる国際シンポジウム

日時: August 11, 2009 14:00 - 17:50

会場: Seoul Press Center, International Conference Room (20F), Seoul KOREA

主催者: Ministry of Land, Transport and Maritime Affairs (MLTM) / Ministry of Environment (ME) / Chosun Ilbo

後援: Korea Institute of Construction Technology (KICT) / Korea River Restoration Network (KRRN)

プログラム

開会挨拶: Dr. Y. J. Cho (President of KICT)

祝辞: Dr. M. P. Shim (Chief of Four-River Restoration Project Headquarters) / Mr. B. W. Lee (Vice-minister of Ministry of Environment)

講演 1: Mr. S. K. Ahn (General Team Leader, Four-River Restoration Project Headquarters) Four-River Restoration Project in Korea

講演 2: Mr. H. Nijland (Senior project manager, Room for the River Programme Department, Ministry of Transport, Public Works and Water Management, The Netherlands) Room for the River in The Netherlands

講演 3: Dr. Y. Ishii (Chairman, CTI Engineering Co., Ltd.) Integrated River Basin Management against Climate Change in Japan

講演 4: Dr. P. Julien (Professor, Department of Civil Engineering, Colorado State University, USA) Prospective Climate



News of KRRN

KRRN が韓国河川協会の特別委員会に

韓国河川再生ネットワーク（KRRN）は、2006 年 11 月 9 日以降、韓国建設技術研究（KICT）が運営してきました。KRRN は 2009 年初めに韓国河川協会（KRA）の特別委員会となり、それ以降、KRA が運営しています。言い換えれば、KRRN は KRA の特別委員会であり、KRA の特別委員会の委員長が KRRN 事務局長も兼務することとなっております。

KRRN がホームページ作成予算を確保

韓国河川協会（KRA）は 10 月に KRRN ホームページ作成予算を承認しました。ホームページは 2010 年半ばに公開される予定です。KRRN のホームページのアドレスは <http://www.krrn.net/> です。



中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN) : China River Restoration Network

CRRN 及び CRRN 事務局関係者による主な活動

河川再生の環境順応型意志決定支援システム事業に関する諮問会議

2009 年 4 月 28 日、中国水利水電科学研究所は河川再生の環境順応型意志決定支援システムのプロジェクトに関する諮問会議を北京レイルウェイホテルで開催しました。このプロジェクトは、中国水利部 (Ministry of Water Resources, MWR) の公益事業科学研究特別基金の一つです。水利部 (MWR) の国際協力科学技術司の幹部たちが専門家や指導者を招待し、プロジェクトを担う専門家が会議に出席しました。

2009 年 4 月 29 日、プロジェクト・チームが運営会議を開きました。上級技術者 Peng Jing 教授と CRRN 事務局長の Sun Dongya 教授の指揮によるこの会合には、中国水利水電科学研究所水環境研究所、中国科学院水資源省、北京師範大学、広西壮族自治区水資源部、麗水水資源局の専門家が参加しました。改訂された技術概要に従って、テーマ別にプロジェクトを実施する政府機関が具体的な内容について本格的な議論を開始して、技術概要をさらに改訂し、職務分掌を明確にしました。作成された会議抄録は以後のプロジェクトの円滑な実施にとって有意義なものとなりました。

CRRN による広西省麗江川の調査

広西省麗江川は、水利部の公益事業科学研究特別基金である河川再生の環境順応型意志決定支援システムの試験プロジェクトの一つです。10 月には、CRRN 事務局長の Sun Dongya 教授と同教授の 12 人のチームが広西壮族自治区桂林市へ赴き、プロジェクトの概要、目的、進捗状況について広西壮族自治区水資源部桂林水文局からの参加スタッフと話し合いをしました。桂林水文局は臨桂にある Huixian 湿原をはじめとする 6 か所の調査を行っています。

韓国での第 6 回水辺・流域再生に関する国際フォーラムへの参加

2009 年 9 月 29 日、ARRN 主催の「第 6 回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」が韓国ソウルで開催されました。CRRN は中国を代表して本フォーラムに参加しました。フォーラムでは、中国、日本、韓国の河川再生の専門家が専門的報告を行いました。参加者はアジアの河川再生についての最新情報および有益な経験を共有しました。アジアの河川・流域再生ネットワークに関連する課題について徹底的な議論も行われました。また、参加者は会議後、良才川生態系再生事業の現場を訪問しました。

水生生態系モニタリング・保護の研修講習への参加

2009 年 12 月 19～20 日、CRRN 事務局の Dr. Zhao Jinyong は 2 名のメンバーを伴い、水環境研究所、中国科学院水資源省、中国水利学会の水生態系専門委員会 (Hydroecology Professional Committee) が共催する水生生態系モニタリング・保護の研修講習に参加しました。

第3回中国の都市における川・湖の包括的管理に関するセミナー

CRRNは「第3回 中国の都市における川・湖の包括的管理に関するセミナー」に参加しました。川・湖の管理、企画、設計、建設という包括的管理に関する国内外の専門家が、この分野における最先端の科学的問題を追求することを目的として本会合に出席しました。会合では、中国の川・湖の包括的管理の達成が報告され、CRRNの事務局長のDr. Sun DongyaがCRRNの紹介をしました。

CRRN ウェブサイトの開設

CRRNはドメイン名 <http://www.cnrrc.cn/> で中国河川再生ネットワークのウェブサイトを設定しました。本ウェブサイトは「アジア河川・流域再生ネットワーク」をはじめとする専門家のウェブサイト・ネットワークとの情報共有の実現を目指しています。中国の河川再生ネットワークには次の12の項目があります。（業界動態、会議情報、プロジェクト進捗、プロジェクト、製品、出版物・論文、専門家、BBS、関連リンク、CRRNについて、メンバー、連絡先）

現代水科学技術革新プロジェクト「河川再生基盤技術に関する研究・実証—河川再生の技術ガイドライン」

2010年1月8日、中国水利部（MWR）国際協力科学技術司は現代水科学技術革新プロジェクト「河川再生基盤技術に関する研究・実証—河川再生の技術ガイドライン」について照査および承認を行う会議を開催しました。議論の末、本研究プロジェクトが契約に基づいてその任務を完了したことに専門家全員が合意しました。現在、中国が緊急に中小河川の調整を行う必要に迫られていることに鑑み、専門家グループによって、関係部局は本プロジェクトのフォローアップ作業に対する支援強化を継続すべきであり、中国における河川再生に関する技術ガイドラインを早急に公布すべきであることが提言されました。



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) : Japan River Restoration Network

JRRN について

「日本河川・流域再生ネットワーク（Japan River Restoration Network；JRRN）」は、ARRN の日本窓口組織として、日本国内における河川・流域再生に関する情報循環促進と人材交流支援を通じ、会員間のコミュニティを拡げながら各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指しています。また、ARRN の設立以降、JRRN が ARRN 事務局を担っています。

■ JRRN の活動ビジョン

■ ネットワークの拡大

河川や流域の再生に関心を持つ人々を増やします。また、これまで事業の中心的役割を担ってきた行政関係者や実務者のみならず、個人や市民団体、企業等が再生の取り組みに参画できる仕組みをつくります。

■ 情報の循環

参画する人々が、河川や流域の再生に関する情報を提供し、それを必要とする人々に平等に行き渡らせ、受け取ることのできる仕組みをつくり、参加者の知識・技術の向上を図ります。また、ここで循環する情報を、体系整理して蓄積します。

■ コミュニティの構築

河川や流域の再生に関わる個人・組織が自由に交流できる人の繋がりを築きます。また人々が各々の立場でネットワークに関与し、協働して河川や水辺の再生に取り組むことができる場を整えます。

■ イベント企画・開催

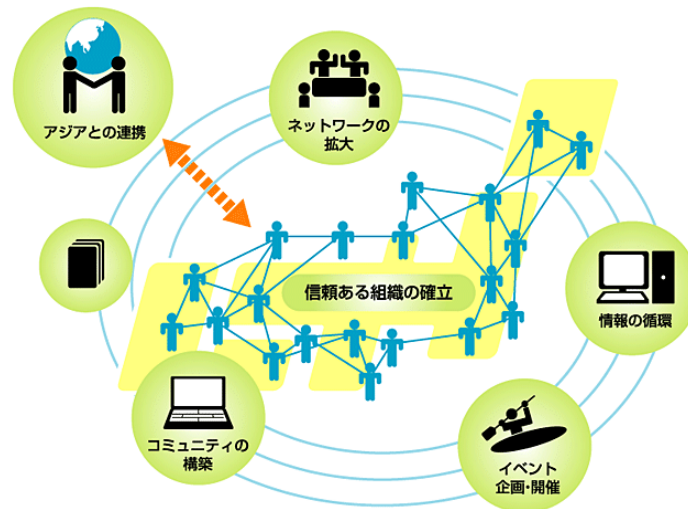
河川や流域の再生に関する意識が広く人々の間で醸成され、また再認識されるよう、多様なイベントを企画します。また、この機会を通し、ネットワーク活動の活性化を図ります。

■ アジアの国々との連携

ARRN の窓口として、中国、韓国をはじめとするアジアモンスーン地域との連携を強め、河川や流域再生に関する情報や、各国のネットワーク運営に関する課題・解決策を相互に共有できる仕組みをつくります。

■ 信頼ある組織の確立

理念に向けた河川や流域の再生に関する取り組みを円滑に進めることができるよう、運営主体の組織体制および活動体制を整備し、社会的信用のある透明性の高い組織を目指します。

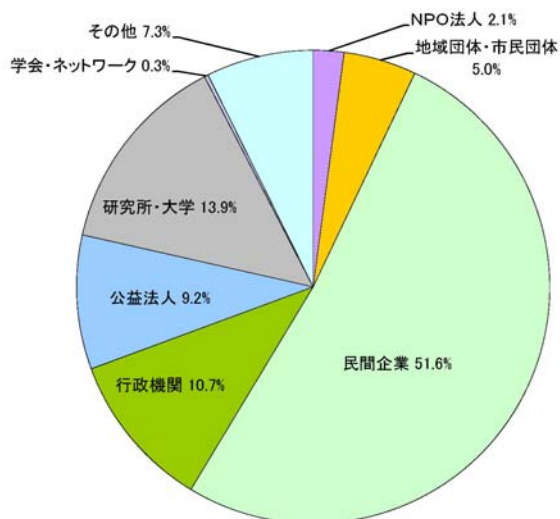


JRRN の活動ビジョン

■ JRRN の会員構成 (2009 年 12 月現在)

[個人会員数] 401

民間企業 51%,
行政機関/公益法人等 20%,
研究機関・大学等 14%, 市民団体・NPO等 8%,
その他 7%



個人会員の内訳

[団体会員] 18

民間企業 50%,
行政機関/公益法人等22%,
市民団体・NPO等28%

JRRN 団体会員メンバー (五十音順)

- 金目川水系流域ネットワーク
- 環境工学株式会社
- 倉敷市
- 株式会社建設技研インターナショナル
- 株式会社コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ
- 有限会社ストリームグラフ
- 株式会社大洋土木コンサルタント
- 株式会社地圏環境テクノロジー
- 株式会社ディーリンク
- 東海タナゴ研究会
- 株式会社ドーコン 水工事業本部
- 日建工学株式会社
- 社団法人日本河川協会
- NPO法人まちづくりネット熊取
- 独立行政法人水資源機構
- NPO法人水辺に遊ぶ会
- NPO法人流域調整室
- 財団法人リバーフロント整備センター

JRRN の主な活動一覧 (2008 年 11 月～2009 年 12 月)

年	月日	活動の種類	活動内容	開催場所
2008	11 月 4 日	イベント開催	第 5 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	中国（北京）
	11 月 4 日	会議開催	第 3 回 ARR 運営会議 開催	中国（北京）
	11 月 25 日～26 日	交流・広報活動	台湾環境保護署行政官の来日視察支援	日本（東京）
	12 月 1 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2008 年 11 月号 (Vol. 18) 発行	-
	12 月 10 日	イベント開催	第 2 回 JRRN 河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」 開催	日本（東京）
2009	1 月 5 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 1 月号 (Vol. 19) 発行	-
	2 月 2 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 2 月号 (Vol. 20) 発行	-
	2 月 20 日	交流・広報活動	香港政府土木開発部 (CEDD) 一行の来日視察支援	日本（東京）
	2 月 27 日	情報発信	ARRN 年次報告書 2008 発行	-
	3 月 2 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 3 月号 (Vol. 21) 発行	-
	4 月 6 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 4 月号 (Vol. 22) 発行	-
	4 月 6 日	出版	「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1」 発刊	-
	5 月 7 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 5 月号 (Vol. 23) 発行	-
	5 月 13 日	イベント開催	第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」	日本（東京）
	5 月 20 日	交流・広報活動	JICA カウンターパート研修支援（パキスタン）	日本（東京）
	5 月 25 日	情報発信	JRRN ニュースメール 200 号配信	-
	5 月 28 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 6 月号 (Vol. 24) 発行	-
	6 月 10 日～13 日	交流・広報活動	韓国河川協会視察団の来日支援	日本（北海道）
	7 月 3 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 7 月号 (Vol. 25) 発行	-
	7 月 8 日	交流・広報活動	台湾政府関係者研修支援	日本（東京）
	7 月 28 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 8 月号 (Vol. 26) 発行	-
	8 月 17 日	会議開催	第 2 回 ARR 情報委員会・技術委員会 開催	韓国（仁川）
	8 月 18 日～21 日	交流・広報活動	世界都市水フォーラム WCWF2009 参加・ARRN 論文発表	韓国（仁川）
	9 月 3 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 9 月号 (Vol. 27) 発行	-
	9 月 11 日	交流・広報活動	第 17 回リバーフロント整備センター研究所報告会・ARRN 論文発表	日本（東京）
	9 月 29 日	イベント開催	第 6 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	韓国（ソウル）
	9 月 30 日	会議開催	第 4 回 ARR 運営会議 開催	韓国（ソウル）
	10 月 7 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 10 月号 (Vol. 28) 発行	-
	11 月 2 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 11 月号 (Vol. 29) 発行	-
	11 月 13 日	交流・広報活動	中国湖北省水利庁視察団の来日支援	日本（東京）
	11 月 20 日	情報発信	JRRN ニュースメール 250 号配信	-
	11 月 30 日	交流・広報活動	中国政府派遣訪問研究者との意見交換	日本（東京）
	12 月 7 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2009 年 12 月号 (Vol. 30) 発行	-

JRRN ホームページ

<http://www.a-rr.net/jp/>


JRRN では、川や水辺の再生に関わる人々が、互いに河川や流域の再生に関する情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、その手段の一つとしてホームページの充実化に取り組んでいます。

本ホームページは、河川や水辺環境再生に取り組む市民団体・行政関係者・民間実務者・研究者などを対象に、河川再生に関する国内外の話題、再生事例、地域活動、専門技術、ニュース、書籍、論文、遊び等々の様々な情報を日本語と英語で掲載しています。

JRRN紹介 JRRN の目的、活動内容、会員登録方法などの紹介	水辺の活動 市民団体や学校など、様々な水辺に関連した活動報告・体験談を紹介
最近の話題・ニュース 川や水辺の再生に関する最新のトピックやニュースを紹介	水辺を楽しむ 水辺の遊び、スポーツ、文化など、水辺を楽しむための情報を紹介
イベント情報 川や水辺にまつわるイベントや講演会などのイベント情報掲示板	水辺を見る・知る・学ぶ 川や水辺の体験施設、楽しいホームページなどを紹介
情報交換・交流 皆様との情報交換を目的としたページ	書籍・教材・論文 川や水辺に関する知識を深めるための書籍を紹介
日本と世界の水辺 国内外の水辺再生の事例、美しい水辺の写真などの情報閲覧所	人・組織のつながり 国内外の川や水辺に関するリンク集

JRRN ホームページの構成

JRRN ニュースレター

JRRN ニュースレターを月 1 回の頻度で配信しており、JRRN 会員と JRRN の活動を共有する上で有効な手段となっています。すべてのバックナンバーはホームページよりダウンロード可能であり、詳細は以下の URL をご参照下さい。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>

各ニュースレターのバックナンバー表紙一覧（2008 年 11 月号～2009 年 12 月号）



JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、週 2 回の頻度で JRRN 会員向けに発行しています。主なコンテンツは、国内外における河川再生に関連するトピック、ニュース、新刊書籍、また JRRN 会員からの情報や、JRRN 事務局からのお知らせ、イベント情報などで構成されています。

なお、すべてのバックナンバーはホームページで見ることが可能です。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/>

JRRN ニュースメールのサンプル (2009 年 5 月 25 日配信 第 200 号)

JRRN ニュースメール第 200 号 (2009 年 5 月 25 日)

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN: <http://www.a-rr.net/jp/>) よりニュースメールをお送り致します。

2006 年 12 月 18 日に第 1 号を配信後、約 2 年半の歳月を経て、本日無事に第 200 号を発信することができました。引き続き、河川環境再生に関わる国内外の情報発信に努めてまいりますので、会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。(バックナンバーはこちら <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/>)

---◇今週のメニュー◇---

【1】河川・流域に関する最新記事 (2009 年 5 月 22 日-5 月 25 日の 4 日分)

【2】JRRN 事務局からのお知らせ

- 5/20 「JICA 国別研修 (パキスタン)」受入の報告
- 5/13 「第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座」開催の報告
- JRRN 個人・団体会員特典のご案内

【3】JRRN 会員からのご案内
特になし

【1】河川・流域再生に関する最新記事 (2009 年 5 月 22 日-5 月 25 日の 4 日分)

■水辺全般■

●「水余り」? 「治水」の側面も 徳山ダム導水路事業検証 東京新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://www.tokyo-np.co.jp/s/article/2009052590102816.html>

●中国のエコ発電ビジネス、地方政府の経済成長優先で期待外れ nikkei Bpnet - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20090522/154728/>

●遊魚まつり 君津・小糸川 東京新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20090525/CK2009052502000072.html>

●「朴正熙元大統領は山を、李明博大統領は川を再生」 朝鮮日報 - 2009 年 5 月 22 日

記事全文→ <http://www.chosunonline.com/news/20090523000028>

●諏訪湖周水辺整備最終区間 諏訪市豊田に人工なぎさ造成へ 長野日報 - 2009 年 5 月 23 日

記事全文→ <http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=14364>

●都市の屋上に水辺を創出 - ビオトープ型の循環式屋上緑化システムが登場 マイコミジャーナル - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://journal.mycom.co.jp/news/2009/05/25/033/>

●初夏の水郷、体感 日田川開き観光祭 大分合同新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ http://www.oita-press.co.jp/localNews/2009_124321741798.html

●川の環境、命の尊さ学ぶ 京都新聞 - 2009 年 5 月 22 日

記事全文→ <http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2009052300054&genre=K1&area=S10>

■自然再生■

●湿原再生の森作り目指す/NPO法人トラストサルン釧路 釧路新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://www.news-kushiro.jp/news/20090525/200905253.html>

■都市の水辺■

●シンポジウム：半世紀ぶり「堀川」復活考え 「川にもっと愛着を」――府庁／京都 毎日新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ <http://mainichi.jp/area/kyoto/news/20090525dd1k26040191000c.html>

●フォーラム：川の再生考える きょう千代田で／東京 毎日新聞 - 2009 年 5 月 22 日

記事全文→ <http://mainichi.jp/area/tokyo/news/20090523dd1k13040304000c.html>

●国交省 平成 21 年度 地域と連携した川づくりに係る事業を... EIC ネット - 2009 年 5 月 22 日

記事全文→ <http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=20704&oversea=0>

■生態系■

●カワニナ：ホテルの餌、放流 守る会の 30 人――大垣・南市橋／岐阜 毎日新聞 - 2009 年 5 月 23 日

記事全文→ <http://mainichi.jp/area/gifu/news/20090524dd1k21040026000c.html>

●水環境を知り川をきれいに 長浜の児童が水生生物調査隊結成 中日新聞 - 2009 年 5 月 22 日

記事全文→ <http://www.chunichi.co.jp/article/shiga/20090523/CK2009052302000009.html>

●干潟って生き物いっぱい、徳島・吉野川で親子イベント 読売新聞 - 2009 年 5 月 25 日

記事全文→ http://osaka.yomiuri.co.jp/edu_news/20090525kk04.htm

●ホテルの里へ幼虫の飼育学ぶ 中国新聞 - 2009 年 5 月 23 日

記事全文→ <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Top000005240127.html>

JRRN 主催行事

JRRN では、会員及び一般の方々を対象に、河川再生に関わる情報や技術、経験等を共有し交換することを目的として、「JRRN 河川環境ミニ講座」を不定期に開催しています。

第 2 回 JRRN 河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」(2008 年 12 月 10 日：東京)



2008 年 12 月 10 日（水）、第 2 回 JRRN 河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」（講師：李参熙 KICT 研究員）が開催され、安養（アンヤン）川における事例を中心に、韓国での河川再生の現状や技術的手法・課題などをご講演頂くとともに、参加者との活発な意見交換が行われました。

講演では、韓国における河川再生の歩みを簡単にご説明頂いた後、都市河川再生の成功事例として韓国国内で有名な安養（アンヤン）川について、再生事業の概要、適用した技術、生態系回復の状況、また市民参加などをご説明頂きました。また、講演後に行なわれた約 1 時間の意見交換では、日本と韓国の河川特性や法体系の違い、事業牽引役の存在の大切さ、また韓国の河川環境管理における行政・市民・企業の関わり等々の話題に及び、日本との類似点や相違点を理解する貴重な機会となりました。

第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」(2009 年 5 月 13 日：東京)



2009 年 5 月 13 日（水）、JRRN 主催で第 3 回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」が開催され、ARRN 技術委員を務める筑波大学・白川先生にご講演を頂くと共に、JRRN 事務局より「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1」（2009. 3 月・ARRN/JRRN 発刊）を解説させて頂き、その後参加者との活発な意見交換が行われました。

技術支援・広報・国際交流

JRRN では、日本国内やアジアにおける豊かな水辺環境の創造を目的として、技術支援や国際交流、また様々な普及活動を推進しています。

台湾行政関係者の視察支援（2008 年 11 月 25 日～26 日：東京）



2008 年 11 月 25 日～26 日にかけて台湾政府関係者が来日し、視察先との事前調整及び 2 日間にわたる現地視察（首都圏外郭放水路、古ヶ崎浄化施設、東京都落合水再生センター）の支援を JRRN 事務局が担いました。

香港政府関係者の東京都及び隅田川視察支援（2009 年 2 月 20 日：東京）



2009 年 2 月 20 日（金）、香港特別行政区土木開発部（Civil Engineering and Development Department）の視察団一行が来日し、日本の都市部水辺再生の好事例として隅田川及び旧中川を視察するとともに、隅田川を管理する東京都建設局河川部を表敬訪問し、活発な意見交換が行われました。

JICA 国別研修（パキスタン）の受入（2009 年 5 月 20 日：東京）



2009 年 5 月 20 日（水）、JICA（独立行政法人国際協力機構）研修プログラムで来日したパキスタン政府及び地方自治体関係者に対し、日本の河川環境改善の歩みや河川環境再生事例などの講義、及び現地視察（隅田川）の案内を JRRN 事務局が担いました。

本研修者一行は、「洪水危機管理実務」の習得を目的に来日しましたが、パキスタンではゴミの河川への投棄など河川環境面でも多くの問題を抱えるため、河川管理や社会啓発を行う際の留意事項として河川環境分野の話題を提供しました。

台湾からの実務者研修の受入（2009年7月8日：東京）



2009年7月8日（水）、台湾政府経済部水利署の実務者一行が研修プログラムで来日し、日本の河川環境改善に向けた取組みについて、JRRN 事務局及び財団法人リバーフロント整備センターが研修を担いました。

台湾では、河川再生情報を扱った公的機関によるホームページが先日公開されるなど、台湾全土で河川環境再生を目的とした事業が実施されつつあり、多自然川づくりや自然再生事業など河川環境分野の最新の日本の施策等について説明しました。

第17回リバーフロント整備センター研究所報告会参加（2009年9月11日：東京）



2009年9月11日（金）、JRRN を運営する（財）リバーフロント整備センターの研究所報告会が開催され、「河川再生に関わる技術・情報の蓄積と国際ネットワーク構築の取り組み」と題して、ARRN や JRRN のこれまでの活動と今後の展望に関し JRRN 事務局沼田が発表しました。

中国湖北省水利庁視察団の来日支援（2009年11月13日：東京）



2009年11月13日（金）、中国湖北省水利庁の副庁長を団長とする河川視察団（7名）が来日し、JRRN 事務局と河川環境改善の取り組みを中心に意見交換を行うとともに、水環境改善事例として東京都足立区を流れる綾瀬川の視察支援を担いました。

中国政府派遣訪問研究者との意見交換（2009年11月30日：東京）



2009年11月30日（月）、中国政府派遣訪問研究員の2名が JRRN 事務局を訪問し、中国東北地方の水環境問題や解決が求められている諸課題に関する意見交換を行いました。

参考資料

第4回世界水フォーラム・自然再生分科会の提言(2006年3月・メキシコ)

2006年3月、メキシコシティで開催された第4回世界水フォーラム内の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国による合同分科会の場において、中国、日本、韓国、マレーシア、UNESCO-IHEの各国、機関の関係者のパネルディスカッションを踏まえて以下の提言が成されました。本提言を受ける形で、アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）が2006年11月に設立されました。

- It has been realized that river restoration is of vital importance to socio-economic sustainable development in parallel with flood management and water use management.
- It is necessary to recognize that the basin as a basic unit for management, that the river environment is dynamic, and that the environment of the various rivers is maintained by dynamic disturbance.
- It is necessary for the countries in Asian monsoon region to establish the suitable methodology and technology for river restoration, considering dense population, frequent and severe flooding, and abundant rice paddy.
- In Asian monsoon region human-influence to a cultural landscape is harmonized with the ecosystem traditionally. Those landscapes that have been modified by humans over long periods are often also important for nature as well as culture.
- It is important to develop a database and Asian network of projects and knowledge of international experts in river restoration. River restoration is a multi-disciplinary and multi-organizational task that should be supported by river engineers, environmental scientists, ecologists, water managers and the public.
- It is urgent to establish a river restoration guideline suitable for the Asian monsoon region as a reference for countries with similar social and natural conditions.

(Quote from "Session output" on 4th World Water Forum's "River Restoration in Asian Monsoon Region")

ARRN 規約(2009 年 9 月改定版)

アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) 規約

第 1 条 名称

本国際情報交換ネットワークは「Asian River Restoration Network」(以下 ARRN) と称する。

第 2 条 組織

ARRN は、運営会議によって機能する。この運営会議の下、日常業務を推進するために情報委員会、技術委員会、事務局が設立される。

第 3 条 目的

ARRN は、アジア地域における河川・流域再生に関する知識、技術情報の交換を行うための非政治団体である。その目的は、河川・流域再生にかかわるネットワークを通じて組織・個人が知識や経験を共有、交換できる機会と場を提供し、参加者相互の知識、技術の向上を図ることとする。

第 4 条 活動の種類

前条の目的を達成するため、河川・流域再生に関して次に掲げる種類の活動を行う。

- ・ 技術支援活動
- ・ 調査研究活動
- ・ 出版活動
- ・ 広報活動

第 5 条 活動内容

ARRN は第 3 条に定めた目的達成のため、河川・流域再生に関して次に掲げる活動を行う。

- ・ インターネットを介した Web サイト、e-mail により配信されるニューズレターを通じた情報交換・共有活動
- ・ ワークショップ、フォーラム等を開催し、世界の最新水辺事情や水辺環境整備事例の紹介、収集する場の提供
- ・ 河川・流域再生に関するガイドラインの作成、改訂
- ・ 共同研究の実施および実施に向けた情報提供等のサポート
- ・ 参加者間での講師派遣
- ・ 河川、流域再生に関する書籍の翻訳、出版

その他、必要に応じて活動内容を拡張する。

第 6 条 参加資格及び登録手順

1. ARRN は、本ネットワークの目的に賛同する行政、民間機関、NPO、研究者、個人等の自由な参加を可能とする。
2. 参加者は次項の手順に従い運営事務局に登録する。
3. 既に国内ネットワーク (RRN) 事務局が設置されている国・地域においては、登録希望者その国・地域の国内ネットワーク事務局を通じて ARRN 登録を行う。国内ネットワークが設立されていない国・地域については、登録希望者は ARRN 事務局に直接登録手続きを行う。

第7条 運営会議

1. 運営会議は、規約に基づいて組織体制、活動計画等、ARRN 運営に関して決定を行う。
2. 運営会議は、各国内ネットワーク（RRN）の代表者で構成される。
3. 運営会議には会長をおき、会長は河川再生の分野で優れた資質と見識を持つ者で、任期は2年とする。
4. 会長は各RRNによって推薦され、運営会議にて選出される。
5. 運営会議では、ARRN 参加者および事務局から提案される以下の項目について審議する。
 - ・ 運営会議、事務局の体制の決定
 - ・ 規約の施行、修正及び失効に関する決定
 - ・ 毎年の行動計画と行動方針の決定
 - ・ その他参加者からの提案事項

第8条 情報委員会

1. ARRN 情報委員会は、ARRN の将来ビジョンと活動内容、またツールボックス等の知識共有基盤の整備方策を定めることを目的とする。
2. 情報委員は、各国内ネットワーク（RRN）の代表者により任命され、任期は2年とする。

第9条 技術委員会

1. ARRN 技術委員会は、アジアの国々に適したガイドラインをはじめとする河川再生のための技術方策を提示することを目的とする。
2. 技術委員は、各国内ネットワーク（RRN）の代表者により任命され、任期は2年とする。

第10条 事務局

1. 運営会議には事務局をおき、その事務局は各国内ネットワーク（RRN）のローテーションによる選ばれる。運営会議で承認された場合は、事務局の再選が可能となる。事務局の任期は2年とする。
2. 事務局には事務局長をおき、会長により任命される。
3. 運営会議の開催は、事務局によりなされる。
4. 事務局は活動計画、その他事項等を運営会議に諮る。

第11条 活動資金

事務局の活動資金は原則として事務局によって賄われる。ただし、必要な場合は他の参加者に協力をあおぐことができる。

第12条 施行、失効、修正

これらの規約は、各国内ネットワーク（RRN）代表者の署名の後に施行する。また、これらの規約は運営会議の審議により、適宜修正及び失効される。

注釈：

当規約は、中国水利水電科学研究院(IWHR)、韓国建設技術研究院(KICT)及び日本の財団法人リバーフロント整備センター(RFC)の協議に基づき2006年11月に作成され、第4回運営会議(2009年9月30日開催)において部分改定されたものである。

ARRN 加入方法

Joining the ARRN is Free!

To become member of ARRN, please read the following instruction, and send a membership application form to secre@a-rr.net by email.

Membership Benefits

- (1) Easy obtaining of domestic and foreign information on river restoration through website, email, and direct contact to ARRN secretariat or other ARRN members as following;
 - Latest news, topics, projects, experiences, lessons, case studies
 - International and domestic events such as seminar and workshops
 - Standard books, technical guidelines, video images, etc.
- (2) Holding opportunity to introduce member's organization and their activities to other ARRN members
- (3) A coordinated business with various foreign countries or organizations
- (4) Holding management support such as international seminar, workshops and establishment of regional river restoration network by ARRN secretariat

Possible Tasks

- (1) Members will participate in ARRN with commitment to use their own resources and to work effectively in partnership with other members that are collaborating in the network. Members will support the objectives of ARRN described in the charter.
(<http://www.a-rr.net/charter.html>)
- (2) Members can freely inspect the Web site, and moreover, useful information on river restoration in your organization and your region can be freely sent through the Web site for other members.
- (3) Members positively join for ARRN events such as international forum and the workshop by each RRN sponsoring. Also, every member can hold original workshop by receiving the backup of ARRN or RRN.
- (4) Members cooperate positively when the specialist's technical advice is required or the advanced case investigation committee is sent to another region.
- (5) Members share the information sent by ARRN with related persons in your organization.

Procedure for joining ARR

- (1) An organization which wants to join ARR is requested to submit a membership application form by email. (Attached the following page)
- (2) The membership application form submitted by the organization is judged by the Secretary General and the Chairperson of ARR.
- (3) After the Chairperson of ARR approves the membership application form, the organization becomes the ARR member as a Non-RR organization. (Refer to the following ARR Organizational Structure)
- (4) ARR secretariat will send email soon to the contact person named in the application form.
- (5) When plural groups gathered in a certain country or regions, the ARR secretariat supports the establishment of each RR. The establishment of new RR will be judged by ARR governing council meeting.

Note)

In a country/region which RR secretariat has already established, applicants to ARR should be registered through the RR secretariat. (China, Korea, and Japan)

For further information, please contact to secre@arr.net by email.

ARR Membership Application Form for organization (MS-WORD:601kB) is available here. <http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/appform.doc>

JRRN 加入方法

■ 会員登録資格

JRRN への登録は、団体、個人を問わず無料です。行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースメール（週1～2回）による国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 会員限定行事への参加ができます。また、国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集や専門家紹介等の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

※1 ホームページ上に入力頂いたコメントは、JRRN 事務局承認後に公開させていただきます。

※2 ホームページ「イベント情報」欄へのイベント掲載は、JRRN 事務局承認後に掲載させていただきます。

※3 ニュースメール、Newsletter、年次報告書のバックナンバーは、会員・非会員を問わず JRRN ホームページ上で閲覧できます。

※4 「JRRN/ARRN 主催行事の優先案内・参加」は、一般公開前に、JRRN 会員を優先してイベント案内と募集を致します。

※5 国内外の河川再生関連情報収集や専門家・組織紹介支援は、その目的に応じて JRRN 事務局で判断し対応させていただきます。

※6 ホームページ「最近の話題・ニュース」やニュースメールでのイベント案内等は、JRRN 事務局承認後に掲載します。

※7 個人会員からのホームページ等での情報発信依頼に対しては、公益に資する内容に限り JRRN 事務局で判断し対応します。

※8 団体会員申込時に、英語情報の受信を希望された団体会員のみとします。

※9 目的や内容により可能な支援内容も異なりますので、本サービスに関しては JRRN 事務局にお問合せ下さい。

- **会員登録方法** ※会員の登録は、団体会員・個人会員で異なります。

(団体会員として登録される方)

団体会員を希望される方は、団体会員登録方法に関する説明書及び申込書を以下よりダウンロードし、その内容に従いご登録をお願いします。

団体会員登録説明書及び団体会員登録申込書のダウンロード URL:

→ <http://www.a-rr.net/jp/info/member/register-group.doc>

(個人会員として登録される方)

個人会員の登録をご希望される方は、以下の項目に関して記載の上、register-1109@a-rr.net までお送り下さい。

- (1) 氏名（フリガナ）
- (2) 所属（組織名、部署名等）
- (3) 連絡先： 自宅 or 所属先
（(4)～(6)で登録する連絡先の区分を自宅もしくは所属先のいずれかから選択してください）
- (4) 住所
- (5) 電話
- (6) FAX
- (7) メールアドレス（ニュースメール送付先）
- (8) 関心のある分野や専門等

もしくは、以下の申込書をダウンロード頂き、FAXにて申し込むことも可能です。

→ <http://www.a-rr.net/jp/info/member/register-personal.pdf>



Asian River Restoration Network Secretariat **アジア河川・流域再生ネットワーク 事務局**

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフター中央ビル7階

TEL: 03-6228-3860 FAX: 03-3523-0640

E-mail: info@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/>

事務局員: 佐合純造(事務局長)・後藤勝洋・沼田彩友美・和田彰



ARRN(Asian River Restoration Network)は2006年11月に設立されました。設立後4年間は、日本窓口組織であるJRRN(Japan River Restoration Network)がARRN事務局を担います。また、ARRN及びJRRN事務局は、「河川環境の国際的な情報ネットワークの構築に関する共同研究」の一環として、財団法人リバーフロント整備センターと株式会社建設技術研究所により運営されています。 <http://www.a-rr.net/jp/>

※表紙写真: 大韓民国・良才川(ソウル市)

2010.3 版